**●『改訂版 倫理』　年間指導計画と評価の観点の例**

数研出版 倫理/314

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| **月** | **時間** | **大単元**  **（学習項目）** | **小単元**  **（学習内容）** | **指導・評価の観点** |
|  | | 第1編　現代に生きる自己の課題 | | |
| **４** | **１** |  | 1　人間とは何か | * 何をもって人間というのかを考えることができる≪思考≫ * 人間の多様性・多義性が理解できる≪知識≫ |
| **１** | 2　青年期の意義と課題 | * 自分を含めた青年が、どのような世代的特徴を持っているのか考えることができる≪関心≫≪思考≫ * 青年期の身体的・社会的・心理的な特徴と意義を理解することができる≪知識≫ * 青年期の現状と将来を見通しながら、青年はどのような課題を負っているのかを考えることができる≪思考≫ |
| **１** | 3　自我の発見と自己形成 | * 自分の性格や能力などについて考察し、それを文章に表現したり、発表したりすることができる≪思考≫≪技能≫ * アイデンティティの意味が理解できる≪知識≫ * 大人になるということの意味について考え、自立した社会人となるための意欲が持てるようになる≪思考≫≪関心≫ |
| **1** | 4　パーソナリティの形成と生きがい | * 個性化と社会化の意味を理解し、それぞれの実現をはかることができる《知識》《関心》 * 自己実現と生きがいの関わりを認識し、他者とともに生きることの大切さを理解することができる《思考》《関心》 |
|  | | 第2編　人間としての自覚 | | |
| **４・５** | **５** | 第1章  西洋思想の源流 | 第1節  古代ギリシアの思想 | * 神話が人間に対して持つ意味と哲学が誕生してきた背景が理解できる≪思考≫≪知識≫ * 哲学とは何を探求する学問なのかという関心と興味を持つことができる≪関心≫ * ソクラテス・プラトン・アリストテレスなどの思想家が求めた人間観・国家観・倫理観について、全体的な理解ができる≪知識≫ |
| **５・６** | **３** | 第2節  キリスト教 | * 宗教が人間に対して持つ意味について考察するとともに、自分なりの意見を表明できるようになる≪思考≫≪技能≫ * ユダヤ教の歴史とその特徴について理解できる≪知識≫ * イエスの教えを理解するとともに、その活動の意味を考察することができる≪知識≫≪思考≫ * キリスト教の成立の背景とその宗教的な特徴が理解できる   ≪知識≫ |
| **６** | **１** | 第3節  イスラーム | * イスラーム成立の歴史的背景が理解できる≪知識≫ * 現代イスラームの実情について関心を持ち、それについて調べてみることができる≪関心≫≪技能≫ |
| **６** | **３** | 第2章  東洋思想の源流 | 第1節  古代インドの思想と仏教 | * バラモン教成立の背景を理解し、ウパニシャッド哲学の梵我一如の思想の意味について考えることができる≪知識≫≪思考≫ * 日常生活の仏事を振り返って仏教への関心を抱くとともに、現代における仏教の意義について考え、文章にまとめることができる≪関心≫≪思考≫≪技能≫ * ブッダの思想(四聖諦と慈悲)が理解できる≪知識≫ * 縁起の思想に立って、現実の生活を考えることができる≪思考≫ * 上座部仏教と大乗仏教の相違が理解できる≪知識≫ |
| **６・７** | **３** | 第2節  中国の思想 | * 日本社会にある儒教文化について調べ、中国の思想について関心を持つことができる≪技能≫≪関心≫ * 諸子百家出現の背景が理解できる≪知識≫ * 儒家が求めた仁や礼などが理解できる≪知識≫ * 道家の思想内容(道や無為自然)を理解するとともに、それが現代に持つ意味を考察できる≪知識≫≪思考≫ |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| **月** | **時間** | **大単元**  **（学習項目）** | **小単元**  **（学習内容）** | **指導・評価の観点** |
|  | | 第3編　現代に生きる人間の倫理 | | |
| **７** | **２** | 第1章  西洋近代の思想 | 第1節  理性への信頼と人間の尊厳 | * 「近代的」という言葉の意味を考え、ルネサンスと宗教改革がヨーロッパの近代化に持った意義が理解できる≪関心≫≪知識≫ |
| **９** | **２** | 第2節  自然・科学技術と人間 | * 現代の科学・技術と人間生活との関わりに興味と関心を持つとともに、近代科学の先駆者の功績について理解できる≪関心≫≪知識≫ * デカルト・ベーコンの思想の理解を通して、科学的思考の意味について考えることができる≪知識≫≪思考≫ |
| **９** | **４** | 第3節  個人・社会と自由 | * 「民主的」という言葉がどのような使われ方をしているのかについて調べ、発表できる≪関心≫≪技能≫ * ホッブズ・ロック・ルソーの思想の理解を通して、権利の意味について考えることができる≪知識≫≪思考≫ * 自由について考え、自分の意見を発表することができる≪思考≫≪技能≫ * カントの認識論・道徳論の理解を通して、理性の働きや人間の尊厳について考えることができる≪知識≫≪思考≫ * ヘーゲルの弁証法や倫理学の理解を通して、法と道徳、家族と社会と国家の関係について考えることができる≪知識≫≪思考≫ |
| **９・10** | **４** | 第4節  民主社会の倫理 | * ベンサム・J.S.ミルの思想の理解を通して、幸福の問題について考えることができる≪知識≫≪思考≫ * プラグマティズムの思想的特徴を理解するとともに、この思想が持つ民主主義や教育に果たした意義について考察することができる≪知識≫≪思考≫ * 空想的社会主義と科学的社会主義、およびマルクス以降の社会主義思想の理解を通して、社会主義の目指したものについて考えることができる≪知識≫≪思考≫ |
| **10・11** | **６** | 第2章  現代の思想 | 第1節  現代思想の流れ | * 合理的思考ということについて、その意味と限界について考えることができる≪思考≫ * キルケゴール・ニーチェ・ヤスパース・ハイデッガー・サルトルの各思想の理解を通して、主体的に生きるということの意味について考えることができる≪知識≫≪思考≫ * フロイトやユングの理解を通して、無意識の持つ意味について考えることができる≪知識≫≪思考≫ * 構造主義やフランクフルト学派などの理解を通して、野蛮と文明、理性と非理性について考えることができる≪知識≫≪思考≫ * レヴィナス・アーレント・ハーバーマスの思想を通して、現代において他者の持つ意味や相互的・共同的な営みにおいて理性が持つ役割を問い直すことができる《知識》《思考》《関心》 * ロールズやセン・サンデルなどの考え方を理解し、現代の福祉の方向について考えることができる≪知識≫≪思考≫ |
| **11** | **２** | 第2節  現代社会と生き方 | * 先人の努力によって獲得された自由が、高度に発達した現代社会においてどのように捉えられ、変質しているのかを、フロム・ウェーバー・リースマンの思想から考えることができる《知識》《思考》《関心》 * ガンディーやシュヴァイツァーの思想や活動を理解し、現代におけるヒューマニズムの意義について考えることができる≪知識≫≪思考≫ * キングやサイードの思想から、差別が生まれ出る心のメカニズムを学ぶことができる《知識》《思考》《関心》 * 社会参加あるいはボランティア活動について、自分の意見を発表できる≪技能≫ |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| **月** | **時間** | **大単元**  **（学習項目）** | **小単元**  **（学習内容）** | **指導・評価の観点** |
|  | | 第4編　国際社会に生きる日本人としての自覚 | | |
| **11** | **２** | 第1章  日本の伝統思想と東洋思想の受容 | 第1節  日本の風土と古代日本人の考え方 | * 日本の気候・地形・植生などの風土について調べ、発表することができる≪技能≫ * 記紀神話に記された死生観・道徳観などが理解できる≪知識≫ * 清めや祓ひなどの古代以来の日本的罪観念について、現代と比較して考察できる≪思考≫ |
| **11・12** | **４** | 第2節  仏教の受容と展開 | * 聖徳太子による仏教の日本定着の意義を考えることができる≪思考≫ * 空海と最澄の思想の相違が理解できる≪知識≫ * 末法思想と鎌倉新仏教との関連が理解できる≪知識≫ * 日本仏教の宗派について関心を持ち、それぞれどのような特徴を持っているのか発表できる≪関心≫≪技能≫ * 浄土系仏教と禅宗系仏教および日蓮宗の各特徴が理解できる≪知識≫ * 古典や芸能などの中に見られる仏教思想の影響に気づくことができる≪関心≫ |
| **１** | **５** | 第3節  儒学の受容と国学の発達 | * 日常生活の中に見られる儒教的な儀礼について調べ、意見を述べることができる≪関心≫≪技能≫ * 日本朱子学と日本陽明学の相違、および古学派の主張が理解できる≪知識≫ * 国学の思想系譜と思想内容、および神道思想についての理解ができている≪知識≫ * 民衆の思想、および洋学の思想的特徴とその時代背景が理解できる≪知識≫ * 日本人の思考傾向の中にある儒教的なものについて考えてみることができる≪思考≫ |
| **１・２** | **５** | 第2章  西洋思想の受容と近現代の日本の思想 | 第1節  近代の日本の思想 | * 欧米化された現代日本社会の現状を振り返り、明治以降の日本の歩みに関心を抱くことができる≪関心≫ * 明治維新の持つ意味について考察できる≪思考≫ * 啓蒙思想・キリスト教思想・伝統思想などについて、思想的特徴および思想的意義について理解できる≪知識≫ * 近代文学、大正デモクラシー、近代日本哲学などの内容を理解するとともに、それらの思想が求めたものについて考察することができる≪知識≫≪思考≫ |
| **２** | **１** | 第2節  国際社会を生きる日本人 | * 現代の国際社会の中で、日本がどのような役割を果たしているのかを調べ、発表することができる≪技能≫ * グローバリゼーションとナショナリズムとの関連を理解し、今後の日本のあり方について考えてみることができる≪知識≫≪思考≫ |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| **月** | **時間** | **大単元**  **（学習項目）** | **小単元**  **（学習内容）** | **指導・評価の観点** |
|  | | 第5編　現代の諸課題と倫理 | | |
| **３** | **６** | (第1節から第6節のうち，いくつかを選択して学習) | 第1節  生命倫理（バイオエシックス） | * 現代の生命科学や医療技術の状況に関心を寄せ、その問題点について考えることができる≪関心≫≪思考≫ * 生命の誕生・延命治療・終末医療などの現状を認識し、それぞれが抱える倫理的課題について考えることができる≪知識≫≪思考≫ |
| 第2節  現代の環境問題 | * 現代の環境問題について調べ、現状と課題について発表することができる≪技能≫ * 環境問題の実態と現状を認識した上で、環境倫理の主張する内容を理解できる≪知識≫ |
| 第3節  家族と地域社会 | * 家族形態や機能の変化について理解するとともに、現代家族の課題について考えることができる≪知識≫≪思考≫ * 高齢問題や男女共同参画社会について調べ、意見発表ができる≪技能≫ * 地域社会が変化しつつある中で、家族と国家の中間的な位置にある地域が我々に持つ意義を理解することができる《知識》《思考》 |
| 第4節  情報社会の功罪 | * 情報化の進展について考察し、情報公開制度や情報リテラシーなどの育成など、情報化社会の課題に対する認識が持てるようになる≪思考≫≪知識≫ |
| 第5節  さまざまな文化・宗教への理解 | * グローバリゼーションがもたらす文化上の問題点について考察・発表することができる≪思考≫≪技能≫ * 多文化主義や文化相対主義の意味を理解し、自民族中心主義の克服について考えることができる≪知識≫≪思考≫ |
| 第6節  国際平和と人類の福祉 | * 国際平和が人類の福祉の向上に取り組む地道な努力を通して実現されることを、ユネスコ憲章などの資料から学び取ることができる≪関心≫≪思考≫≪技能≫ * 人類福祉の意味と差別の構造について理解できる≪知識≫ |

指導・評価の観点欄の《関心》は「関心・意欲・態度」を、《思考》は「思考・判断・表現」を、《技能》は「資料活用の技能」を、《知識》は「知識・理解」をさす。

■各教科の評価の観点及びその趣旨（高等学校及び特別支援学校高等部）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **公　　　民** | 関心・意欲・態度 | 現代の社会と人間にかかわる事柄に対する関心を高め，意欲的に課題を追究するとともに，平和で民主的なよりよい社会の実現に向けて参加，協力する態度を身に付け人間としての在り方生き方についての自覚を深めようとする。 |
| 思考・判断・表現 | 現代の社会と人間にかかわる事柄から課題を見いだし，社会的事象の本質や人間の存在及び価値などについて広い視野に立って多面的・多角的に考察し，社会の変化や様々な考え方民を踏まえ公正に判断して，その過程や結果を適切に表現している。 |
| 資料活用の技能 | 現代の社会と人間にかかわる事柄に関する諸資料を収集し，有用な情報を適切に選択して，効果的に活用している。 |
| 知識・理解 | 現代の社会的事象と人間としての在り方生き方とにかかわる基本的な事柄を理解し，その知識を身に付けている。 |